

令和7年度人生100年時代シニア活躍推進県民会議

日 時 令和7年12月22日(月)
午前10時00分～午前11時40分
場 所 長野県庁講堂

1 開 会

○事務局

定刻になりましたので、ただいまから令和7年度人生100年時代シニア活躍推進県民会議を開会いたします。私は、長野県健康福祉部健康増進課の青木と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、内容に入る前に、会議資料の確認をお願いします。会議資料は事前に送付しておりますとおり、会議次第、出席者一覧、座席表、資料1です。

資料をお持ちでない方がいらっしゃいましたら、挙手していただけますでしょうか。こちらに御用意がありますので。

また、本日の会議は、11時30分を終了予定としております。

2 健康福祉部長あいさつ

○事務局

初めに、開会に当たり長野県健康福祉部笹渕健康福祉部長より御挨拶申し上げます。

○健康福祉部 笹渕部長

健康福祉部長の笹渕でございます。人生100年時代シニア活躍推進県民会議の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃から県政の推進はもとより、健康福祉行政全般につきまして御理解と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、人生100年時代を迎え、誰もが元気で安心して確かな暮らしができる社会づくりが重要な課題となっております。県では、総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」において、高齢者の活躍支援を明記し、シニア世代が培ってきた豊富な知識と経験を、社会参加や仕事等で生かし、地域の担い手として多様な活躍ができるよう取り組んでいるところでございます。

本日の会議におきましては、つながりをテーマにしたワークショップを行うことで、分野を超えた連携のヒントとしていただきたいと思います。加えて、御参加いただいている皆様一人一人が人生100年時代について、自分事として、また自分の組織のこととして考えるきっかけとしていただきたいと思います。

結びになりますが、皆様方からの忌憚のない御意見をお願い申し上げるとともに、本日の会議が今後の事業展開を図る上で有意義なものとなることを期待申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 ファシリテーターの紹介

○事務局

それでは、笹渕部長は所用がございましたので、ここで退室させていただきます。

次に、本日の会議のファシリテーターを御紹介いたします。長野県長寿社会開発センター前理事長であり、フリージャーナリストの内山二郎さんです。

ここからの進行は、内山さんをお願いしたいと思いますので、それでは、内山さん、よろしく願いいたします。

○内山二郎氏

皆さん、こんにちは。御紹介いただきました内山二郎と申します。今日は、この県民会議全体のナビゲーターをさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

今日は皆さん、グループに分かれてワークショップがメインなんですけれども、そのワークショップに入る前に、戸枝長寿社会開発センターの理事長、それから長寿社会開発センターの主任コーディネーターの齊藤さん、それから、こう古参になりました、コーディネーターの下倉さん。ちょっと皆さんの気持ちを一つにするお話をさせていただきたいと思います。

戸枝理事長、あれですね。時代のあおりもあり、そしてもともとは老人大学といったのがいつの間にかシニア大学に変わり、そして趣味や教養だけではなくて、社会とどう関わっていくかというのが大きなテーマになりましたけれども。どうでしょうかね、今、長寿社会開発センターの一番大きな目的としていることってどんなことなんですかね。

○戸枝理事長

そうですね。人生100年時代になりましたけれども、社会も本当に変化して課題が深刻化している。少子高齢化だとか、いろんな問題が顕在化している時代に入ったと思います。

それで、やはり暮らしの場っていうのは、分野別になっているわけではなくて、それが全部重なり合って、そして暮らしの場が成り立っているんで、どれも切り分けることができない・・・そこで長寿社会開発センターは、コーディネーターを10圏域に一人ずつ配置して、そしてそれを全体として高めながら、そして長寿社会そのものも何のときに連携しながら、また外部的には多分野を、あらゆる可能性のある分野を開拓しながらつながりながらやっていくという、そういうことに挑戦してきた歩みがあります。

○内山二郎氏

今、コーディネーターのお仕事のお話がありましたけれども、齊藤主任コーディネーター、今どんなことが起こっていて、そこで課題は何なんでしょう。

○齊藤主任コーディネーター

シニアの皆さん、先ほども青木企画幹からお話がありましたように、シニアは特技、これまで培ってきた経験があります。ただ、皆さんそれぞれ異なっていますので、やりたいこともできることも本当に多様化しています。初めは個人の趣味から始まっているかもしれませんが、そこで仲間を募ってみんなが集まるような場所を地域に求めて、例えば今日公民館の方もいらっしゃってますけれども、みんなが集まりやすい公民館だとか空き家、それから商店街の空きスペース、そんなこともこれまでの経験から交渉して使えるようにする。そして、みんなが集まって活動できるような場をつくる。その場づくりも定期的にやることで、今日、介護支援課さんもいらっしゃってますけれども、それが通いの場になり。そして、シニアだけではやっぱりもったいないよね、できたら地域のつながりも希薄化している中で、世代を超えて若い人たちとつながるような企画をシニアの皆さんが考えて一緒になって活動する。そうすることで、地域のつながりが生まれて、地域づくりにも発展していく。それが定着して持続可能に継続するような地域のつながりにも発展していくという活動は生まれています。

ただ、これから課題としては、そういったところに専門の分野の方ですとか、いろんな分野の方がそれぞれで関わっていただいておりますけれども、いろんな分野の皆さんが今日、お集まりになっている分野の皆さんがどこにもつながっていただくことで、社会の変化にも対応できながら切れ目のない支援、シニアの活躍を円滑にする支援ができていけたらなということをご願っております。分野を超えてつながっていただきたいということをご願っております。

4 内容

(1) 人生100年時代シニア活躍推進事業について

○健康増進課 大澤主事

皆様、本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。健康増進課の大澤と申します。私のほうから、人生100年時代シニア活躍推進事業について、御説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

この事業につきましては、令和4年度までは、「人生二毛作社会推進事業」という名前で事業を行っており、令和5年度から「人生100年時代シニア活躍推進事業」として人口減少や少子高齢化が加速する中、シニアの多様な活躍を推進することを目指しております。本事業は、シニア世代が培ってきた知識や経験を社会参加の中で生かして、地域で様々な活躍ができる態勢づくりを行うものです。

事業名を変更するに至った一つの理由といたしまして、ライフスタイルの変化がございます。これまでの教育を受けて仕事をして、退職して引退して第二の人生を歩むといういわゆる単線系のライフスタイルから、現在では、教育を受けるところから並行して、学生のうちから起業したりですとか、退職してもう一度学び直したりですとか、様々な人生を歩めるようになってきておりました。

このようにライフスタイルが変化してきておまして、人生の幅が広がっております。この新しいライフスタイルに沿った事業名として、「人生100年時代シニア活躍推進事業」に変更をいたしました。

本事業の背景といたしまして、こちらの資料は日本の人口の推移と将来設計でございます。棒グラフが人口、折れ線グラフが人口割合を表しておまして、棒グラフの青色が生産年齢人口、黄色が65歳以上の人口を表しております。グラフを見ていただきますと、生産年齢人口は減少を続けるにもかかわらず、65歳以上の高齢者は減少しない見込みですので、高齢化率は上昇を続けて2036年には高齢化率が33.3%になり、日本の約3人に一人が高齢者になると言われております。

そこからさらに高齢化が進みまして、2070年には、高齢化率は38.7%に達し、約2.6人に一人が高齢者になる社会が到来すると見込まれております。

次のスライドにさせていただきますと、こちらは長野県の人口推移と将来設計でございます。長野県の2023年の高齢化率は32.7%で、全国第20位になっております。そこからさらに高齢化が進みまして、令和6年度版の高齢社会白書によりますと、2050年には高齢化率が41.6%になり、全国第16位になる見込みでございます。2023年には全国20位ですが、2050年には全国16位ということで、全国的に見ると、若干速いペースで高齢化が進んでいるのではないかなと思います。

次のスライドにさせていただきますと、これは長野県の健康寿命についてです。高齢化率の高い長野県ですが、平均寿命が長いことはここ最近よく知られていることです。加えまして、要介護度を元に算出される日常動作が自立している期間の平均、いわゆる健康寿命が3年連続で男女ともに全国1位になっております。男性に関しましては3年連続での1位、女性に関しましては

8年連続での1位となりました。

健康増進課では、世界一の健康長寿を目指す取組といたしまして、信州エースプロジェクトという主に運動、検診、受診、食事といった観点から健康づくりを啓発する県民運動を推進しております。そういった働きかけもこのような結果の背景になっているのではないかなと思っております。

次のスライドにさせていただきますと、こちらは高齢者の社会参加活動や仕事への参加頻度についてです。本事業では、高齢者の社会参加という点に焦点を当てて取り組んでおりますが、グラフにある5つの活動、それぞれについて、参加していないと答えた人の割合が4割を超えました。参加していると答えた人の割合が最も多いのは5番目の収入のある仕事でありまして、唯一3割を超えていました。

本日、労働関係の機関の皆さんもお越しいただいておりますが、この働くということも一つの社会参加になっております。近年では、定年延長の動きもあり、今後はこの割合がさらに高くなるのではないかなと思っております。

1番から4番、参加者が少ない活動ではありますが、その中でも4番の地域の生活環境の改善、美化活動については、比較的参加率が高くなっております。これらの活動の中では、参加しやすい活動と言えるかもしれません。こういった参加しやすい活動を社会参加の入り口といたしましてほかの活動にも参加していけるといいのかなと思っております。

次のスライドは、地域づくり活動への参加意欲についてです。元気高齢者のうち、地域づくりへの参加に参加者として参加することに対して、肯定的な回答をした高齢者は約半分以上となりました。しかしながら、今度は企画側として参加することに肯定的な回答をしたのは約35%になっております。参加者として地域づくり活動に参加することについては肯定的な回答をしていた高齢者の皆さんでも、企画側となると少しハードルが高いようです。

それから、それぞれ2つのグラフにつきまして、既に参加していると答えた人の割合がいずれも1割未満となっております。グラフでいきますと、緑色のところですね。上ですと7.1%、下ですと4.7%、いずれも1割未満となっております。参加可能ではあるものの、実際にはどう参加しているか、何からやればいいかということが分からずに、なかなかきっかけがつかめずこのような結果になっているのではないかなと思っております。

本事業では、このような層にアプローチしていく方法を模索していく必要があります。地域づくり活動への参加率の向上につきましては、まだまだ改善の余地があると考えています。

ここまで高齢者に関する幾つかのデータを御説明させていただきまして本事業の背景について説明いたしました。次に総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」での本事業の位置づけについてです。

基本目標を達成するための5つの柱である「誰にでも居場所と出番がある社会をつくる」の中に、高齢者の活躍の支援が明記されております。元気な高齢者はもちろん、寝たきりになっても、障害があっても、どんな状態になっても居場所があり、出番があり、生き生きと生活できるような社会がつかれるよう、当課では高齢者の健康づくり、つながりづくりの観点からこの事業を推進することとしております。

次のスライドは本事業の仕組みについて説明いたします。

本事業は、シニアが地域で活躍できる仕組みづくりと、本日の県民会議の2本立てになっております。本日お越しの各圏域のシニア活動推進コーディネーターの皆さんが、地域の実情や課題を把握し、図のような様々な関係機関と連携するためのプラットフォームの役割を担っております。シニアの社会参加活動を推進するために地域に密着し、ときに圏域をまたいだ大きなスケールで、かつきめ細かな支援を行っております。

シニアが地域で活躍できる仕組みづくりは、これまで同様、ネットワーク会議やタウンミーティングなど、コーディネーターが中心となり本日お越しの関係課や関係団体の皆様と様々な角度

から連携を行っていくこととしております。

最後のスライドになりますが、近年の県民会議の振り返りです。令和5年度の県民会議では、フューチャーデザインに関するワークショップを行いました。30年後の将来を想像して、ありがたい個人や地域、社会の姿について自分事として捉え、グループワークを行い、全体で共有いたしました。

昨年度の県民会議では、「人生100年時代における共生社会」をテーマにいたしまして、トークセッションやワークショップを行いました。共生社会という観点から人生100年時代を考えることで、人生100年時代に対する認識の幅を広げるきっかけになったのではないかなと思います。

一方で、近年の県民会議、反省点もあり、県民会議で行った議論ですとか連携が、もしかしたらその会議終了とともに終わってしまうということもあったのではないかなと思っております。本日の県民会議は、先ほど内山さんからも話がありましたとおり、「分野を超えたつながり」というテーマで、分野や部局を超えた連携の可能性を見つけるワークショップを行います。今年度は、本日皆さんお越しいただいておりますけども、長寿社会開発センターのコーディネーターの皆さんをぜひ御活用いただきながら、本日の会議で見つけた連携の可能性を会議終了後に実現することを目指していただきたいなと思っております。

最後になりますが、本日の会議の後には、少しでもシニア世代のことを自分事として考えて、この高齢社会の中でもシニア世代の活躍、生きがい、居場所づくりを少しでも意識していただきまして、皆様の事業に取り組んでいただくきっかけとしていただければなと思っております。

簡単ではありますが、健康増進課からの説明は以上になります。ありがとうございました。

(2) ワークショップ (テーマ 「分野を超えたつながり」)

○内山二郎氏

ありがとうございます。そして、いよいよワークに入っていくわけですが、ワークをどんな視点で何を考えたらいいいのかということ、下倉さん、ちょっとスライドを中心に説明してください。

○下倉コーディネーター

よろしくお願いします。

今日の企画の内容ですが、まず本日のテーマ、「分野を超えたつながり」地域や分野、部局を超えた連携の可能性となっています。

さて、皆さん、この「超える」という字、大澤さん、あえてこの字を使ったんですね。どういうことか。「越える」と「超える」がありますね。どんな違いがあるでしょう。ちょっと調べると面白いんですね。こっちの「越える」、場所や時間を超えるというときに使う言葉だそうです。例えば、山を越える。物理的な壁を越えるといったようなイメージではないかなと思います。

それに対して、こっちの「超える」数値や基準を超えるというようなときに使う言葉なんだそうです。例えば、超能力。どちらかというと認識の壁を越えるといったニュアンスで使われる言葉でもあります。認識の壁。この言い方ができるんじゃないかと思うんですね。当たり前という思い込みという壁ではないかなと思うんです。

例えば、「それはうちじゃないよ。」っていう言葉が使われるんじゃないでしょうかね。縦割りという当たり前を超えていくということが今日の会議の一つの大事どころかなというふうに感じています。なので、「分野を超えたつながり」ということなんです。当たりの認識が変わってくれば、私たちの行動も変わってくるであろうということが言えるのだと思います。

さて、私たちが直面する課題、いろいろありますけれども、今一番重要視されているのはサステナビリティですね。持続可能性という問題。皆さん、皆さんがイメージする持続可能性の問題、どんなものをイメージされますか。ちょっとお隣同士でしゃべってみましょう。どんなことをイメージされますか。15秒、どうぞ。持続可能性のイメージ、どんな問題をイメージしますか。

あと5秒。よろしいですよ。はい、それまで。

いろいろありますよね。環境問題であるとか。こんな言い方ができるんじゃないかと思うんです。持続可能性、当たり前の暮らしがどうも当たり前ではなくなってきたなということではないかなと思うんですね。

例えば、地域の持続可能性、どんなことをイメージされますか。私は、これに映っているのは上田の武石の写真なんですけども、道路の真ん中に花壇があるんです。これ、地域で育てている花壇なんです。こういった花壇というのは、もちろん皆さんの身の回りにもあるでしょう。例えば、老人クラブ、シニア倶楽部さんとか、またPTAとか、地域の方々が育てている花壇だと思います。

何気にこういう花壇というのは、僕ら、通り過ぎてしまうんですけれども、決して当たり前に咲いている花ではないんですね。そこには必ずその地域の方の思いであるとか、あとは地域のつながりであるとか、そういったものがあつたからこそ咲いている花なんです。ところが、こういった花、花壇、地域の花が今どんどん少なくなっていると思います。特に、そこに追い打ちをかけたのが、五、六年前のコロナですね。人と関わるなということ僕らは経験したということなんです。これもまた、地域のサステナビリティ、持続可能性ではないかなと思います。

さて、本日の県民会議で考えたいこと、それは今日のテーマ「シニアの活躍の推進」でしたね。これ、誰の責任なんだろうということなんです。シニアの活躍の推進、僕らはこれを一般的にはシニアの方の責任、個人の責任というふうに考えていくんだと思うんですね。つまり、シニアが何を選擇するかという問題ではないかと僕らは考えるんです。つまり、シニアの活躍というのは、あなたが、シニアがどう考えるか、あなた次第ですよというメッセージを僕は比較的多く発してるんだと思います。

ところが、これを社会の問題として捉えたらどうか。そうすると、我々がシニアとどう関わるかということが言えるんだと思います。つまり、シニアの活躍は、今日皆さん集まっていた皆さん、私たち次第ということが言えるんだと思うんですね。私たち次第とは何でしょう。例えば、こんなことをイメージしてください。水が半分入ったコップが皆さんの目の前にあつたとしましょう。どう思いますか。「あれ、半分しか入ってないわ。」と感じる方もいるでしょう。でも、もしあなたが砂漠の中を三日三晩歩いてきたら、「半分も入ってる。」と言って涙を流してコップを・・・はずですね。

つまり、そこに何を見いだすか次第で意味は変わってくるということが言えるんだと思うんですね。このコップをシニアに置き換えたらどうでしょう。つまり、皆さんがシニアにどんな可能性を見いだしていくことができるかどうかによって、実はシニアの方々、そしてその先の地域の在り方が変わってくるであろうということが言えるのだと思うんですね。

本日の県民会議のワークショップの目的はこれです。信州の未来は、あなたがシニアに何を見いだして、当たり前の壁を超えて誰と連携するか次第で100年後の信州の姿は変わってくる。つまり、集まっていた皆さん次第ですよというのが今日の目的でございます。

内山さん、どうぞ。

○内山二郎氏

どうもありがとうございます。ということで、何かプレッシャーをのつけからかけられちゃったような感じがしますけれども。

これからワークに入っていきますけれども、それぞれのテーブルにファシリテーターとしてコ

ーディネーターがおりますけど、それを中心に進めていきたいと思います。

まずは、自分たちのテーブルにどんなメンバーがいるかと、ざっと自己紹介をしてもらいましょうかね。お願いいたします、ファシリテーター。

(グループごとに自己紹介)

○内山二郎氏

そろそろよろしいですかね。

それでは、話題に入っていきたいと思います。今日のテーマは、「シニアの活躍の推進」です。コーディネーター、よろしいですか。真ん中にかわいいシニアのおじいちゃんもおばあちゃんでもいいです。ちょっとイメージするイラストを描いてみてください。あまりリアルにしないでかわいくしてね。

(模造紙へ書き込み作業)

○内山二郎氏

そうしましたら、第一のお題にいきます。シニアの活躍の推進といったときに、人生100年時代とか人口減少化とか、過疎化とかいろいろありますけれども、何が問題なんだろう、課題は何なんだろうというのを黄色い付箋に自由に書いて、その周りにまずは貼ってみましょう。一般的な問題ではなく、シニアの問題を前提にしましょう。

(黄色い付箋 記入)

○内山二郎氏

自由に書き出してください。何が問題なんだろう。いろいろありますよね、孤立の問題とかね。家族の形が変わっちゃって非常に居場所がないっていう人もいますよね。何でも結構です。思い浮かぶイメージを1枚、2枚でも結構です。書いてその周りに貼っていってください。

出たら、それについてみんなでちょっと話し合いをしてみましょう。周りに。何枚でも結構です。コーディネーターを中心にちょっと皆さんで話し合いをしてください。

話し合いをちょっと深めてください。そして、コーディネーターは、そのカードを少しずつ整理していきましょうかね。何かグルーピングができるかもしれません。

(黄色い付箋記入・話し合い)

○内山二郎氏

いいですかね。それでは、次のお題にいきたいと思います。2つ目です。今、いろんな問題が出てきました。自分たちは、あるいはいろんな部局でもいいですし、それから業界でもいいですね。どういう関わり合いを持っているだろうかというお題。それを青い付箋に書いてどんどん貼っていってください。

どういう取組をしているだろうか。どういう取組が進んでいるだろうか。自分たちがしていることもいいし、それから客観的にいろんな取組があるねということでもいいと思います。どんな取組が行われているだろうか。持続可能なということがキーワードになってますけれども。そういうことを元に、どういう取組が今行われているか。これを青い付箋に書いてどんどんそれに関連するところに貼っていってください。

(青い付箋 記入)

○内山二郎氏

現在やっている取組でもいいし、それから必要と思う取組でも結構です。できるだけ多くの青いカードを出しましょうね。自分の部局、あるいは業界でもいいんですけども、ほかのところでこんな取組が行われているよっていうのもいいかもしれませんね。自分たちということと、それからいろんな業界を見たときに、こんな取組が今、そのことについて行われているよというのをちょっと作ってください。そして、それを元にまた話し合いを深めましょう。

話し合いをしながら、またまたいろんなアイデアや情報が思い浮かぶかもしれませんね。それを書き加えていってください。

コーディネーターは、みんなのを見てそれを整理してみましよう。どんどん整理して、そして話し合いを引き出してください。

発言をカードにどんどん書き写してください。そうしないと消えてしまいます。コーディネーター、どんどん書き込みを入れていってくださいよ。みんなの意見が出てますので、書き込みをどんどん入れていってください。

(青い付箋記入・話し合い)

○内山二郎氏

それでは、3つ目のお題にいきます。今日は、「分野を超えて」というテーマがありますけれども、その課題を解決するために分野や地域や世代を超えてどのように取り組めばいいのかということをお話し合って、ピンクのカードに記入してください。分野を超えてどのようにすればいいだろうか。いろんなものを超えてというのが今日のキーワードですけども、どういうふうにつながったらその大きな課題を解決できるだろうか。それをどんどん書き足していってください。

今日の大きなテーマであります「連携して」とか「協働して」、いろんな分野やセクションを超えてどうすればこの課題を解決できるだろうかということです。様々な課題がありました。

コーディネーターは同時進行でカードを整理していってください。いろんな塊ができてきたと思います。そこに小見出しをつけるというのもありますね。

(ピンク箋記入・話し合い)

○内山二郎氏

話し合いがとても盛り上がっているようですけれども、そろそろまとめていきたいと思います。1つ目のお題から3つ目のお題、どうつながったらいいかということまでできましたけれども。話し合いを少し整理してまとめて、そして自分たちのグループはこんなことが大事だということが分かりましたというのをキャッチフレーズで上のほうに大きく書いてください。

キャッチフレーズまでできましたかね。キャッチフレーズを大きく書いてください。プレゼンテーションしますのでね。キャッチフレーズ、キャッチコピーを大きく書いてください。そして、どこかにグループ名と、それからこれを一緒にやったメンバー名をどこかに入れておきましょう。今日の日付も入れましょうか。

今日のテーマは、大きくは超えて連携する、どう連携したらいいのか、当たり前前の壁を超えて連携するというのが大きなテーマになっております。ちょっと意識したキーセンテンス、キャッチフレーズを考えてください。そして、キャッチフレーズが分かるようにそれを強調してください。キャッチコピーは大きく書きましよう。

(グループワーク 終了)

○内山二郎氏

そろそろまとまってきたみたいですね。そうしたら、5つのグループありますけれども、プレゼンに入っていきますけれども、これをどういうふうにプレゼンするか。まず、プレゼンターを決めてください、グループの中で。そして、どういうふうにするのか。そして、いつもやっているんですけども、最後は俺たちこういうふうに意見がまとまったぜっていう決めポーズで終わるとというのが我々のいつものルールなんですね。そこまでいってください。プレゼンターを決める、そして、どんな段取りでどうするのか、そして最後は決めポーズで決める。

プレゼンの持ち時間、1チームの持ち時間は3分です。3分でできるだけたくさんの方が発言する、しゃべるということルールにしましょうか。最後は決めポーズで決める。そこまで話し合ってください。

(発 表)

○内山二郎氏

そしたら、3分ですね。Aチーム、拍手をお願いします。

○グループA 松永コーディネーター

Aグループです。最初の課題出しから皆さん積極的に書いていただきましたが、自分事として、それから職場の部局としてのいろんな意見が出ていました。その中でも、課題としては、一人暮らしが増えるとか、地域のつながりが希薄化してくるとか、孤立、孤独が増えてくるのではないかと、それから移動する手段がなくなっていくから移動支援というもの大事じゃないかとか、あとインターネットを使えないシニアが多い、その辺をどうしていったらいいんだろうか。これはシニア大学もそうですけど、非常に関心事が多様になってくるシニアに対してどうアプローチしていけるのかといったところが課題として出てきました。

その中でも、じゃあ、何をしたいかというところは、移動支援は県のアドバイザー派遣事業を使ってくださいよとか、あと声を掛け合う地域、集いの場、サロン等、そういったものが地域に多種多様であるべきだとか、あとその人の能力を発揮したり、話したり、聞く場というのが必要ではないかというところが出てきました。

じゃあ、それを超えて何をしたいか、部局を超えて何をしたいかというところは、高齢者が弱いネットには大きな可能性があるから、そこにネットを活用した関連事業を行うだとか、ネットを使う必要性というのを皆さんに伝える場だとか、聞いてもらえる場というのがやっぱり地域には必要だから、話をしていかななくてはいけないねということになりました。

皆さん、いろんな部局の方がいらっしまったので、一言ずつお声を聞かせていただきたいと思います。

○内山二郎氏

じゃあ、お願いします。

○グループA 男性

やっぱりいろいろ可能性はある、難しい課題ですが可能性はあるということこれからどんどん生かしていければいいなと思いました。

○グループA 男性

まず、その人のどんな人かということを知って、能力とかそういうところも把握していくというところが大事かなと思います。

○グループA 男性

それぞれ部局でポテンシャル、強みがあると思いますので、できることを探していけたら一番いいんじゃないかなと思います。

○グループA 女性

課題と感じているところが似ているところがあったので、分野を超えて取り組んでいければいいと思いました。

○内山二郎氏

キャッチフレーズは何でしょうか。

○グループA 松永コーディネーター

キャッチフレーズは、まず人と関わって話をする場、話を聞く場、それから声を掛け合える、こういった地域社会の実現ということになりました。

○内山二郎氏

はい、決めポーズ。

○グループA

人と関わり声を掛け合う地域社会の実現。頑張るぞ、おー。

○内山二郎氏

拍手。ありがとうございます。ということで、今ちょうど3分。

Bグループ、お願いいたします。拍手をお願いします。

○グループB 小林コーディネーター

Bグループです。Bグループも非常に多くの部局からお集まりいただきましていろいろな意見が出ました。その中で、やはり一つは、皆さん、やっぱりインフラですとか情報の提供というのが重要じゃないかというお話ですとか、やはり先ほどのAグループと同じように移動に関する事ですね。そういったものについても取組をどうしていったらいいのかという話。あと、地域のいろいろな継続していくために、人口減少になっているのでその辺の取組はどうしていったらいいのかという取組ですとか、あとそれに対するいろいろな生涯学習ですね。それぞれの立場での取組ですとか、そういったいろいろなお話が出ました。

その中で、いろいろな御意見を各部署からいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

○グループB 男性

私からは、一応キーワードにもなっている「協働」という言葉を使わせてもらったんですけども、やっぱり共に協力をし合って働いていける場をつくっていく。また、他人事として捉えないということが重要ではないかという話を皆さんにさせていただきました。

○内山二郎氏

ありがとうございます。

○グループB 女性

こちらのグループで話があって感じたんですけども、シニアが活躍するにはということで、シニアの意識づけをどうしてもらおうかということで、自分事として捉えるためには学び続けるということと、情報をシニアにどうやって共有するかということが問題なんだなと感じました。

○内山二郎氏

ありがとうございます。どうぞ。

○グループB 男性

地域の伝統のお祭りとかを支えるのに、今年は女性の獅子舞が増えたんですが、それを信毎で紹介したところ、お客さんがたくさん集まったと。やっぱりそういうふうに情報発信していくことが大事ななと思いました。

○内山二郎氏

情報発信ね。

○グループB 男性

いずれも大事な問題だと思っていただきたいと思います。インフラも重いですよ、移動も大事です。結局は、先ほどもお話があったように、何をやるにも高齢者の方々、シニアの方々がいろんなことを関心持って学び続けるということがあって。公民館の方もいらっしゃいますし、シニア大学もありますけれども、いろんな学びの機関が連携したりいろいろ協力し合って学びの環境を提供し続ける。皆さんも学びをする意欲をずっと忘れないでいただくということが大事じゃないかと。これ、まとめじゃないですけど。

○グループB 小林コーディネーター

なかなかまとめづらいですけども、やはり皆さん言われたとおり、もっともっとういう場が欲しいと、議論する時間が欲しいと、そういうことをおっしゃっていただきましたので、より積極的な情報提供とか、こういった会議の場ですとか、本当に部局を超えたいろいろな立場でいろいろな視点から見るということが重要じゃないかということで模造紙を作成させていただきました。以上です。

○内山二郎氏

決めポーズ。

○グループB

せーの、がちり。

○内山二郎氏

ありがとうございます。それでは、これはEのグループですかね。Eのグループ全員で。拍手。お願いします。

○グループE 藤井コーディネーター

Eグループですけども、いろんな声が出ました。まず、活躍の場がなかなか自分を表す場が

ないとか、活躍できる場が分からないといった声。あとは、移動のことが課題だよねとか、楽しむことがなかなか少ない。やっぱり火をつける役割が大事なんじゃないか。あとは、収入、働く場が少ない。収入がある場が必要である、お祭り行事ですとか世代を超えた地域づくりが必要じゃないかといった声が出てきました。あと、一人ではちょっとなかなかということで、どこに相談していいか分からないといったような声も出てきました。やっぱりいろんなことを楽しむことの意識づくり。自分たちが楽しむところから次にはちょっと視点を変えて、経験や特技を生かして活躍の場をつくっていく。そして、それがさらに収入の場へとなくなっていけばいいんじゃないかなということで。

シニアの問題、シニアだけのことでなくて、それぞれが自分のこととして捉えていう必要があるといった話が出てきました。やっぱり知らないということが、こういうこともなかなかこういう場がないということで、まずは職域、地域、世代、いろんな経験、いろんな違いを超えて補い合っていくということが大事なんじゃないかという話です。

じゃあ、一言ずつ。

○グループE 男性

私、感じたことは、やはり働くとボランティア、それ有用かなと思ってますので。収入は大事だと思いますし、自分たちも楽しむということが一番大事かなと思っております。

○グループE 男性

私も感じたこととしては、互いに必要とする関係の構築が必要と思った次第です。

○グループE 女性

世代間交流というのがありましたけれども、やはり自分も地域の一員であるという意識を持ちながら、将来を見ていかなきゃいけないなというふうに思いました。

○グループE 男性

私は、皆さんとみんな一緒なんだよという、そういう心を強く持つことと、それを楽しむということが大事なんじゃないかなと思ってます。

○内山二郎氏

ありがとうございます。

○グループE 男性

今年60になったんですけども、シニアに対して自分の反省を込めて、全然自分事としていないということがあって、しっかり自分事にしなきゃいけないという個人と、社会全体でもみんなが自分事ができればいいなと思いました。

○グループE

違いを生かして補い合おう。

○内山二郎氏

次のチームは、Cのグループですね。お願いします。拍手。お願いします。

○グループC 下倉コーディネーター

タイトルが「ただいまと言える関係を世代を超えて」というふうになりました。ディスカッショ

ンの中で、この「ただいま」というフレーズが出てきたんですけど、その部分を少し紹介してください。

○グループC 男性

過疎化というフレーズから空き家バンクという問題が出てきたんですけども。空き家が出ているということと、あと移住対策と、この2つを解決するためには何がいいのかなというふうに考えたときに、首都圏から若い世代が来て働きながら。でも、働いているので子育てがなかなかできないということで。そうすると子どもの帰る場所、帰ったときに、「ただいま」と言える場所が必要なんじゃないかということで、そこでシニア世代を活用しまして、子どもが帰ってきたときに自分家じゃないんだけど、「ただいま」「おかえり」と言える地域づくりをつくれたらいいなということで、この「ただいま」というフレーズを使わせていただきました。

○グループC 男性

今日はテーマが分野を超えてということで、縦割り意識が根づいている行政、非常に耳の痛い話であったんですけども。ほかの団体がどういった取組をしているか知ることが重要ななと思ったので、すごいいい機会になりました。

「ただいま」と言える関係を世代を超えてということで、「ただいま」というのは居場所ですよ、自分の。例えば子ども食堂とかに御高齢の方が学習支援とか料理を作るのに関わっていたりとか、そういったことが私は重要なんじゃないかなというふうに思いました。

○グループC 男性

部局を超えたいろんな可能性があるなというのを感じるのと同時に、高齢者の方が活躍できるような居場所づくりや情報発信が必要だと感じました。

○グループC 女性

一つの問題で考えていくと、実はいろんな問題が関連的にどんどんつながっているなというのを感じて、やっぱり問題を一つ一つ読み解いていって、あらゆる分野、多方面からそういった問題の解決ができていったらいいのかなというふうに思いました。

○グループC 女性

話をする中で、あ、そんなことをやってるんだとか、それ、知らなかったとか、それ、いいですねなんていう話が出たんですけども、皆さんで、今日が本当に知ってつながるきっかけになってるなと思いました。

○内山二郎氏

最後、決めポーズです。

○グループC

せーの「ただいま」。

○内山二郎氏

ありがとうございます。最後のチームになりました。Dグループですね。全員お願いいたします。拍手。お願いします。

○グループD 和地コーディネーター

私たちDチームです。「多分野が寄れば文殊の知恵」ということで、最後テーマにしたんですけど、ちょうど商工会議所と農村振興課の方がいらっしやいまして、やっぱり担い手不足というお話。そして、やはり高齢化がどこの地域もあって、それにはどうしたらいいかというようなお話から始まっていますが、やはりそういう担い手になってもらうためには、若い人たちが今まで地域で何かをやってきてこんなふうなことをやってみたいとか、いろんな趣味があったりもする方がいて、そういうところに入ってきてくれる人もいるんですが、やっぱりその中で地域の仲間づくり。高齢化が進んでいることをどうやってやったらいろんなふうに解決していけるだろうかという話も出ながら、自分の住む地域で社協さんとか、民生児童委員さんとか、あと行政のほうにもいろんな活動をしているサポートのところもあるんですが、そういうところを知らないので、どうやってつながっていただとか、そういう人たちとどんな情報発信をしながら、その人たちとの交流を深めて、そこからいろんなツールを使って知ってもらってというところを、やっぱりつながっていないので、今そういういろんな部局が。それをつながってやっていくことが本当に大切かなというような話が最後に出てきています。

それじゃあ、皆さん、一人ずつお話をお願いします。

○グループD 男性

今お話があったように、それぞれの分野でいろんな取組をやっていらっしやるんですけども、やはりそれが情報として情報発信できてないので、社協さんだとかいろんなところだとかそういうことの情報発信が非常に大事だなというふうなお話が出ました。

○グループD 男性

私も今日は商工会さんの取組とかを初めて知ったりしたんですけども、ほかの取組、どんなことをやっているかというのと、どうやって伝えて届くようにするかというのが一番難しいし、重要なことかなと思いました。

○グループD 男性

シニアの方と向き合うときに、その方がどんなことを趣味にしているのか、得意なのかということを知っていくということと。あとは、我々としてもいろんな団体がいらっしやるということが今日これでよく分かったので、そういった方がどのような活動をされているのかということ、我々も知っていかないといけないし、発信していかないといけないなと思いました。

○グループD 男性

私は商工会議所なんですけれども、やはり各団体それぞれ得意分野があると思うんですけど、そういったものをいかにシニアの方々に発信していかないといけないかといったあたりを学ばせていただきました。

○グループD 女性

多分野の方々が集まればいろんな知恵が出ていろんな解決策が生まれてくることを、今日つくづく思いました。明日からの一歩が踏み出せそうです。

○内山二郎氏

ありがとうございます。最後、決めポーズ。

○グループD

「つながる」。

○内山二郎氏

つながる。ありがとうございます。

ということで、5つのグループのプレゼンが終わりましたけれども。どうですかね、戸枝理事長、このワークでいろんな課題とその解決策、改めていろいろ出てきましたが。

○戸枝理事長

改めて仲間づくりだとか「ただいま」と言える人間関係づくりは大切だなということを改めて思いました。

私は、ふだん不登校支援を行っているものですから、不登校の子どもたちと親御さんたちと向き合う中で、元気で前向きに頑張れる人たちの集まりばかりではなくて、本当に悩んで苦しんでつらくて悲しくてどうしようもないという人たちの集まり。そこで、ある意味、そこから一歩踏み出したときにすごい力を発揮する。そのエンパワーメントを支援していくというところで、誰もが排除されない、誰でもおいでと言えるような温かい場所みたいなものも必要だなということ、今日の皆さんの話の中に全て含まれているなと思って聞きました。

○内山二郎氏

齊藤コーディネーター、いかがでしょうか。

○齊藤主任コーディネーター

今日はありがとうございました。皆さん、それぞれふだんは違う分野でお仕事をされているわけですが、今日のようにシニアを真ん中に置いたり、県民の方を真ん中に置いたりすると、実は全部つながっているということが皆さんの話の中からよく分かったと思います。

そこで何か切れ目がないように補い合いたいというお話でしたり、あとお互いが必要になる関係ができればなというお話もありました。そんなところを私たちコーディネーターもおりますので、ぜひ私たちを中心にこういった出会う場、知り合える場、分野のそれぞれがやっていることを知り合う場もぜひつくっていききたいと思いますので、ご参加いただきたいと思います。

あと、女獅子舞に変えたというお話がありました。やっぱりそれは、今まで男性が舞っていたらしゃったということだと思うんですけども、じゃあ、それは当たり前。これを何か柔軟に発想を変えて社会の変化に対応していくということも大事だなということも、皆さんから学ばせていただきました。

○内山二郎氏

そして、初めにプレゼンした下倉さん。下倉さん、どうですか。

○下倉コーディネーター

連想ゲームのようにいろんなものを連想していくリングージをつむいでいく中でいろんな関わりが持てることって、意外と知らないんだなということを感じました。

○内山二郎氏

ありがとうございます。県の方にも聞いてみましょう。青木さんいかがでしょう。

○青木企画幹

本当に皆さん、いろんな御意見を出していただきましたけれども、それぞれ本当に今大事なことで、シニアの方々が各地で考えて、そして交わっていただいている。それがまたつながって超

えていけたら、またさらに活躍の場が増えていくのではないかなと思いますので、そんなふうにご協力いただければと思っております。

○内山二郎氏

こういうふうに興味や分野を超えてみんなが集い、そして忌憚ない意見を出し合うことによって気づきも深まるし、これからどうやっていこうかという方向性も見えてきますね。

総まとめです。

○健康増進課 西川課長

改めまして、健康増進課長の西川と申します。皆さんには大変お世話になっており、感謝申し上げます。

今日参加させていただき、私は2点、気づきがありました。皆さんも同じ思いだったらいいなと思います。

1つ目は、縦割りという言葉がありますが、良く言えば、それぞれの分野で、それぞれのプロフェッショナルとしての強みを持っていらっしゃるということです。今日は示された課題からスタートしましたが、自分たちが持っている強みは生かすことができる、ということに気づいていただけたと思います。

2つ目は、自分たちの強みは連携できる可能性があるということにも気づいていただけたと感じました。自分たちのことをシニアの皆さんにどう知っていただくか、また、シニアの皆さんの活動や可能性の情報の共有方法などについて、コーディネーターさんから助言してもらえたと思います。コーディネーターさんは、皆さんの活動をつないでくれる存在ですので、これからも長寿社会開発センターの皆さんの力をお借りしながら、分野を超えたつながりができればいいと思いました。本当にありがとうございました。

○内山二郎氏

そして、もう一人いらっしゃいました。シニア大学の特別推進員の藤澤さん

○藤澤特別推進員

長寿社会でシニア大学の担当をしております藤澤と申します。今シニア大学は10圏域に約1,000人のシニア大生がいらっしゃいます。シニア大生には、シニア大学としては卒業後には社会参加のきっかけ、地域づくりのきっかけの担い手として卒業して行ってくださいねという方針でやっているんですけど、皆さん、意欲を持って卒業されていくんですが、シニア大生を見ると、「こんなことをしたいんだけど、どこに行けばそれ、情報があるの。」「どうしたらいいですか。」という声が非常に多いです。ということは、意欲を持ったシニアに対して情報が届いてないのかなというようなことを私どもも感じますので、ぜひ、この広いネットワークの中で情報発信していただくと、また県も変わってくるのかなというふうに思います。よろしく願いいたします。

○事務局

内山さん、どうもありがとうございました。そして、皆様、本当にありがとうございました。今日はグループごとのお話が多かったとは思いますが、発表を聞いていただいてそれぞれいろいろ思ったところがあるかと思っておりますので、ここで終わらせずにまたこのまま続けていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上をもちまして、令和7年度人生100年時代シニア活躍推進県民会議を閉会いたします。ありがとうございました。

5 閉会